

# 第1学年1組 総合的な学習の時間指導案

場所：1年1組教室

## 1 単元 災害に備える（9時間完了）

### 2 単元の目標

- (1) 自然災害について理解し、身近な地域で起こる恐れのある災害への備えについて、自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断して行動する力を身につけることができる。 (知識・技能)
- (2) 自然災害の発生メカニズムや被害の実態を知り、適切な行動や災害時に持ち出すものについて考えることで、対策の必要性について説明することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- (3) 自然災害について関心をもち、災害対策について意欲的に考えることができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 構想

近年、日本では毎年のように大きな自然災害が発生し、それに伴い多くの被害がもたらされている。また、生活への直接的な被害はないものの、毎年のように地震や大雨などで景観が変わったり、道路がふさがったりするといった被害が起きている。だが、生徒の中には、災害に関して自分事として捉えておらず、災害のニュースなどを自分たちの現実とはかけ離れたものとして捉えている生徒がいるように感じられる。事前に実施したアンケートでは84%の生徒が避難場所を知っているが、実際に避難したことのある生徒は6%であった。また、災害に備えて日頃から食料品や生活必需品を準備している生徒の家庭は、わずか50%で、15%の生徒は備えておらず、34%の生徒は分からないと答えた。アンケートから、実際に避難した経験のある生徒や災害に備えて普段から備蓄品を準備している家庭が少ないことが分かった。今後、南海トラフ巨大地震がいつ起こるかも分からないため、災害時に自ら考え、主体的に判断し、行動する力を身につけ、減災で済んでほしいと願っている。防災教育を通して災害に対する意識を高め、生徒一人ひとりに自分や家族など大切な人の命を守る姿勢を身につけさせたい。

防災教育のねらいは「生きる力をはぐくむ学校での安全教育」（文科省2010）に示された安全教育の目標に準じて、次のようにまとめられる。

ア、自然災害の状況、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考、判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。

イ、地震、台風の発生などに伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。

ウ、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

そこで本校1学年においては南海トラフ巨大地震が必ず起こるということを念頭に置き、過去の自然災害の様子と被害の状況を知り、学校・家庭・地域での日頃の備えを考えさせ、災害時に対応できる力をつけさせたいと考えた。

H20年の8月に起こった福岡学区付近の岡崎豪雨の写真を見せ、自分たちの学区でも災害が起こっていることを伝え、自分事として捉えられるようにしていく。そして、生徒の一番身近に起こった能登半島地震の災害状況に目を向けさせ、災害が発生した際の被害状況や、それに対する対策を調べていく。また、今後いつ起きてもおかしくない南海トラフ巨大地震について、情報を集める中で、そこに潜む災害発生時の危険性を想定させ、事前準備や最善策について考えさせることで課題を設定していく。「災害や避難生活に対する心構えはどうあるべきか」「日頃から家庭で備えておく物資があるか」「自分たちがどのように行動することが大切なのか」など課題解決に向けて考えさせたい。このような学習を通して、地域を知り、防災のための安全な街づくりや防災意識の大切さに気付かせ考えを深めさせていく。そして、防災・減災と災害後の復旧・復興のために「今の自分にできること」を具体的に考えられるように指導していきたい。

#### 4 計画

学習目標	学習内容	時間
○震災は何が恐ろしいのだろう	・過去の福岡中学区で起こった水害写真を見せ、自分たちの学区でも災害があったことを知り、過去の震災の様子を調べることで災害の怖さや不安、困ることなどをまとめる。	1
○南海トラフ巨大地震が起こることに対して、どんな不安が考えられるだろう	・今後起こる南海トラフ巨大地震のイメージ映像を見たり、予測される災害を調べたりする中で自分たちが感じている不安をまとめる。	1
○不安に対しての対策（備え）を考えよう	・前時の不安を少しでも回避するためにどのような対策（備え）をするとよいか調べてまとめる。	1
○災害に対してどのような対策（備え）が必要なのだろうか	・家庭で調べた災害対策を挙げ、他の家庭と比較して気付いたことをまとめる。	1 本時
○本当にこれでよいのだろうか、ゲストティーチャーに聞いてみよう	・ゲストティーチャーを招いて、実際に必要なものや、他の良い方法などを紹介してもらおう。	1
○実際に地震を体験しよう	・起震車を体験し、予想以上の揺れの違いを実感する。改めて備えが必要なことを知る。	1
○自分たちにできる対策（備え）は何だろう	・自分たちで作れる対策法や、常に持ち歩けるような my 防災グッズを考える。	2
○私の防災グッズ（常用）を作ろう	・自分にとって必要なものを選択し、ペットボトルに詰め込む。	1